



## 5月23日『保線部門におけるメンテナンス体制の最適化について』 大地申18号 に関する説明申し入れ交渉開催！！その③

【線路設備モニタリングによる新たなメンテナンス手法の導入について】

### 4. 線路設備モニタリングによる効率的なメンテナンス実施による業務の見直しについて、具体的内容を明らかにすること。

会社：駅間の徒歩巡視については3ヶ月に1回に延伸する。モニタリングデータを活用して変位・材料をタイムリーに把握できるようになる。

組合：モニタリングは第三の巡視と位置付けるが、担当者として行うのか？

会社：個別担当は考えていない。

組合：動的・静的の基準値の考え方は？

会社：トライアルでデータを検証している、そこを基に仕上り基準を決めていく。

組合：基準線のズレという課題は？

会社：NSGがフィルターかけているので、課題はない。

### 5. モニタリング装置の搭載線区、未搭載線区及び今後の搭載計画を明らかにすること。

会社：東北回送、大宮支線、西浦和支線、川越貨物、烏山線以外はモニタリング装置を導入する計画であり、そのうち東北線の黒磯以北、水戸線、両毛線以外はすでに装置を搭載している。

組合：搭載している線区はデータのやり取りを行っているのか？

会社：データとして揃っている線区もある。今年度内に全て揃うようにやっていく。

組合：搭載しない線区は今ままでと変わらないのか？

会社：そうだ。未搭載線区について、車両の関係と首都圏から進めるという考え方でいずれは導入される。

### 6. 車両に搭載したモニタリング装置のメンテナンスや故障対応、記録媒体の引き出し方についての考え方を明らかにすること。

会社：装置の修繕は車両センターで行い、年次検査・全般点検A・B及び記録媒体の引き出しはJETSと契約して行う。

組合：カメラ清掃や記録媒体抜き差しは頻度は？

会社：川越車両センターとさいたま車両センターは、カメラ清掃月1回、記録媒体抜き差しは2回、小山車両センターはカメラ清掃3ヶ月に1回、記録媒体抜き差しは月1回。

組合：小山車両センターのカメラ清掃頻度は3ヶ月に1回で問題ないのか？

会社：運用の関係でそうなっている。保線課もフォローしながらやっていく。

組合：聞いた話では、小山は記録媒体の抜き差しに保線課社員が現地に行っていると聞いている。契約行為で行っているならしっかりJETSに行わせるべきだ。ピットが無いからできないという構造ではない。系統間の連携が問題だ。

会社：再度確認しながらやっていきたい。

組合：カメラ清掃が3ヶ月に1回というのは不安だ。記録が取れないでは意味がない。今後の対策として考えていただきたい。

会社：了解。

その④へ続く